

NJ素流協 News

令和7年9月10日
第248号

令和7年9月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

海岸防災林「ノースジャパン100年復興の森」の再生活動

～今年度も再生活動を実施しました！～

8月26日（火）、「令和7年度海岸防災林再生活動」を宮城県名取市で実施し、NJ素流協組合員、NJ素流協青年部会、役職員総勢19名が参加しました。

「ノースジャパン100年復興の森」事業のこれまでの歩み

▼平成29年4月

仙台森林管理署と当組合の間で「仙台湾沿岸地区海岸防災林（名取市台林国有林内）の再生に向けた活動に関する協定」を締結しました。

本協定では、宮城県名取市の台林国有林に設けられた「社会貢献の森」9・23haのうち、0・08haの区画を「ノースジャパン100年復興の森」とし、10年間にわたって森林づくりと管理を行うことが定められました。

▼平成29年5月

NJ素流協組合員・役職員の数十

名が現地に集まり、宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツのコンテナ苗を植栽しました。



クロマツ初植栽時の集合写真

以降、毎年1回、NJ素流協組合員、NJ素流協青年部会からボランティア参加者を募り、下刈り・補植作業等のほか、NJ素流協職員による定期巡視や、清掃等環境整備を実施しています。

▼令和3年6月

既存区画に隣接する区画0・12haを加えた、0・2haの区画につい

て、仙台森林管理署と再協定を締結しました。

活動内容は、年1回の下刈りと植栽木の成長に伴う枝落とし等保育作業と、2か月に1回の巡視・清掃等の環境整備を行うよう決めました。

▼令和6年9月

既存区画からさらに0・1haを加えた0・3haの区画について、改めて仙台森林管理署と協定を締結し、初めて記念樹（ヤマザクラ）の植栽を実施しました。

全国的に異例の猛暑で、歴代最高気温を大幅に更新する地域もある中で、今回の海岸防災林再生活動の現場も、熱意こもった作業になりました。

活動に当たり、鈴木理事長は、再生活動の経緯と継続の重要性について触れ、次いで、「熱中症にならないよう十分に水分補給しましょう」と挨拶があり、作業が開始され、枝落とし作業、刈払い作業、防風垣の撤去作業、管理地入り口の階段補修作業を実施しました。



防風垣の撤去作業の様子



刈払い作業の様子



枝落とし作業の様子

ビフォーアフターを見ると、作業の甲斐もあって、植栽木やその周囲がスッキリし、林内も明るくなり、作業の達成感が感じられます。

猛暑の中でしたが、今年も、参加者全員ケガ・熱中症等なく、安全に作業を終えることができました。

海岸防災林は、飛砂防備、強風、潮風の軽減などの機能に加えて津波被害軽減効果も期待されており、仙



階段補修作業の様子

階段の補修には、スギ材（丸太100mm×1000mm、杭材100mm×600mm）で、防腐加工処理材、未防腐加工処理材の2種類を用いて耐久性等の比較実験を行うこととしました。

海岸防災林再生活動 ビフォーアフター



台森林管理署からのご指導を頂きながら、十分な機能が発現出来るよう今後も再生活動を進めて参ります。今回の活動に参加された方々に、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました！



皆さん、お疲れ様でした!!

トピックス

カラマツ球果採取ボランティア活動を今年も実施!!

令和7年度カラマツ種子の確保協力として、NJ素流協組合員協力の下、9月1日(月)に岩手県遠野市において、NJ素流協の役職員7名

で、カラマツの球果採取ボランティアを実施しました。

【NJ素流協 球果採取の流れ】

- ①組合員の伐採予定地のカラマツ(球果の結実) 情報をいただく。
- ②伐採時期と球果採取について打ち合わせをする。
- ③伐採後、結実した枝を切り落とし、数力所にまとめて置く。
- ④後日、NJ素流協役職員で球果採取を行う。

今年は、7～8月の異例の暑さ、そこに雨(地域によっては集中豪雨)といった異常気象が繰り返され、9月1日を待たずして、球果の鱗片(りんぺん)が開き、種子の飛散が始まってしまうのではないかと心配するところでした。

また、球果採取に欠かせない、組合員さんの伐採時期が8月で終了、9月から次の現場が始まるという

ケースも多いため、採取場所の確定も厳しい状況でしたが、組合員さんからの情報提供があり、何とか、9月1日に実施することができました。例年であれば、採取の数日前に伐採して準備をしますが、今年度は、採取直前に伐採して、すぐに採取を試みたことで、フレッシュな球果は今年物と判別しやすい事が判明しました。

収穫した球果は、組合員エリア内の苗木生産者に引き取られ、苗木の生産に役立てられます。

今回、球果採取にご協力いただいた



採取直前に伐採! ありがとうございました



今年も無事採取できました!

た中村木材工業様、そして、カラマツ球果情報をくださった組合員の皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました!



球果採取作業の様子

大船渡市山火事被害木の活用が進んでいます!!

大船渡市の山火事被害木の活用に向けた動きが進んでいます。

NJ素流協を通じて原木納入では、9月10日時点で、製材工場2社、合板工場2社、バイオマス工場1社に納入が行われました。

また、岩手県が主催する「県産木材供給連絡会議」と気仙地方林業振興協議会が主催する「地域材利用促進セミナー」が7月に併催され、丸太の被害程度に応じた利用や今後の森林管理等について、関係者間で意見交換が行われました。同日には、火災現場での現地検討会も開催され、被害木の伐倒・造材、利用方法について検討されました。

東北地区原木トラック運送協議会写真集を作しました

東北森林管理局からの依頼で、当組合が事務局を務める東北地区原木トラック運送協議会の写真集を制作

しました。

この写真集には、会社の概要や、代表者・トラックの写真等が掲載されており、林野庁、東北森林管理局から管内管理署（林道プロジェクトチーム）に送付され、行政と現場間の情報共有に役立てられます。

鈴木理事長が長野県で講演・講師を務めました

当組合鈴木理事長が、8月20～21日、長野県で、研修会・勉強会の講師を務めました。

【8月20日 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟・長野県連絡会議】

長野県議会議員及び市町村議会議員により構成される「森林・林業・林産業活性化促進議員連盟・長野県連絡会議」において、森林・林業・林産業の活性化と山村振興についての研修会が開催され、鈴木理事長は「木材のサプライチェーンマネジメント」と題して講演を行いました。

【8月21日 木曽森林管理署】

カラマツ活用戦略会議の名のもとに、現場で働く木曽森林管理署の職

員へ、主伐・再造林に対する意識の醸成を図るための勉強会が開催され、鈴木理事長は、「カラマツ主伐・再造林の実施における必要性やポイント」と題して講演を行いました。

令和7年度「全国労働衛生週間」が10月1日から始まります!

全国労働衛生週間は、働く人の健康の確保・増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組む週間です。

厚生労働省は、令和7年度の全国労働衛生週間実施要綱に基づき、以下のとおり実施することとしています。

「スローガン」

「ワーク・ライフ・バランスに意識を向けて ストレスチェックで健康職場」

【期間】

10月1日～10月7日

※9月1日～9月30日までは準備期間です。日常の労働衛生活動の総点検を行いましょ!

「全国労働衛生週間（10月1日～7日）に実施する事項」

- 事業者又は総括安全衛生管理者による職場巡視
- 労働衛生旗の掲揚及びスローガン等の掲示
- 労働衛生に関する優良職場、功績者等の表彰
- 有害物の漏えいによる事故、酸素欠乏症等による事故等緊急時の災害を想定した実地訓練等の実施
- 労働衛生に関する講習会・見学会等の開催、作文・写真・標語等の掲示
- その他労働衛生の意識高揚のための行事等の実施

実施要綱には、各事業場の実施事項等詳しい内容が記載されています。詳しくは厚生労働省HP等をご覧ください。

厚生労働省HP
令和7年度
「全国労働衛生週間」を
10月に実施
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_60242.html



地区別組合会議でもお知らせした通り、伝統工芸品の鳴子こけしの材料であるミズギが不足しています。ご協力をお願いします。

径級 4・5 cm ～ 20 cm

長さ 2 m (直材、節無し)

※冬伐りになるので、土場に雪が降る前の11月末～12月初旬に納入(2 m材を積んで乾燥できる土場がある方は、冬期間中出荷可能)

鳴子こけし組合からの緊急要望！

ミズギが不足しています

お知らせ

残暑が続きます！6月に義務化された、「職場内での熱中症対策」の整備を引き続き徹底しましょう！



【連絡先】

● 日本こけし協会

☎ 0229-183-3600

● こけし木地組合(桜井こけし店)

☎ 0229-187-3675



「樹木伐採者の公募」について

河川敷の樹木を有効活用

河川敷の樹木を見て、「もったいないな」利用できないかなあ」と考えたことはありませんか？

河川敷の樹木は、洪水時に流れを悪くして水嵩を上げたり、見通しが悪くなると、巡視がしにくくなったり、熊の通り道になることもあるので、国土交通省の河川国道事務所等では、繁茂の状況により、伐採を行っています。

伐採された樹木については、燃料としての地域のニーズもあり、貴重な資源として利用する必要がありますので、河川管理者と協働で『河川の管

理』をすることとして、地域の方々を含めた伐採希望者を公募しています。

伐採した樹木は販売可能であり、由来証明書は河川事務所から発行されます。

搬出期限については、伐採者が所定の申請書に記入して申請(年度内とお考え下さい)します。

また、河川国道事務所以外にも、県や市町村が河川管理者となっている河川については、各土木部署が公募しているケースもありますのでぜひご確認ください。



河川敷樹木 薪以外にも使えそう！

【樹木伐採者の公募の検索方法】

国土交通省東北地方整備局の事務

所一覧から、該当事務所のHPで、新着情報又は「樹木伐採者の公募」で検索してください。

東北地方整備局
管内各事務所の紹介
<https://www.thr.mlit.go.jp/tohokunet/soshiki/>



9月以降に公示されることが多いようです



アカマツ伐採再開シーズン
までもうすぐ！

東北6県では、松くい虫被害のまん延を防止するため、岩手県の未被害地域を除いて、アカマツ等の伐採・利用の休止期間が設けられていますが、秋を迎え、利用が再開されます。

各県の伐採・利用の再開は、青森県、

岩手県の被害地域、秋田県、山形県、福島県（指導）は10月から、宮城県は11月からとなります。

但し、岩手県の未被害地域のうち、二戸市、一戸町、岩手町、雫石町は被害実績があるので、被害のまん延防止のため、被害地域に準じて伐採・利用を行うよう、可能な限りご協力ください。

新規林業創業者等支援について

信用保証制度があります

独立行政法人農林漁業信用基金では、新規創業者等支援として「林業・木材産業の創業等支援保証」を行っています。

この保証は、林業・木材産業において新規創業する方や、他産業から林業・木材産業へ参入する方の資金調達の際に、その債務を保証するものです。

この保証により、新規創業等の事業者であっても、金融機関から融資を受けやすくなります。決算を3期経過していない方が対象者となり、

保証限度額は3千万円、保証料は最大5年間免除となります。

「林業・木材産業の創業等支援保証」付き融資は、金融機関に直接申込みとなります。詳しくは以下のリンクをご覧ください。

独立行政法人農林漁業信用基金HP

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/shinyouhosyou/index.html>



令和7年度第2回林業経営

講座を開催します!!

注目!

令和7年度の第2回林業経営講座

を、宮城県石巻市で次のとおり開催します。

【テーマ】

林業機械の現状と納入原木の使いみち

【月日】

令和7年10月6日（月）

～7日（火）

【視察先】

- ① みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会（展示実演の視察）
- ② 株式会社山大（製材・プレカット工場の視察）
- ③ セイホク株式会社（合板工場の視察）

内容の詳細につきましては、お知らせ済みの案内文書をご覧ください。皆さまの参加をお待ちしております！

営業部からのお知らせ

新設バイオマス工場の進捗状況

稼働予定をお知らせします

東北4県で、新設バイオマス工場が以下の通り稼働予定です。

下記以外にも、構想段階中、試験

運転中の発電所もあり、今後、燃料となる

バイオマス用原木・

チップの需要拡大が

期待されます。



	発電所名	住所	kW	稼働予定
青森県	曾我バイオマス発電	三戸郡南部町	1,990	稼働中
	川内町バイオマス	むつ市	1,990	2027年12月
岩手県	矢巾発電所	紫波郡矢巾町	1,990	2026年1月
	グリーンパワーとおの	遠野市	1,990	2026年11月
	八幡平ネクストエナジー	八幡平市	7,100	2027年1月
秋田県	横手湯沢フォレストサイクル（横手発電所）	横手市	1,980	2026年6月
	横手湯沢フォレストサイクル（湯沢発電所）	湯沢市	1,980	2026年6月
	県南バイオマス発電	横手市	7,100	2026年12月
山形県	米沢バイオエナジー	米沢市	7,100	2025年12月
	もがみバイオマス発電2	新庄市	7,100	2026年10月

ちよつと気になる木の話

110

国産材需要の喫緊の課題

― 川中工場の活性化に
必要なことです! ―

川上の林業事業体にとって、喫緊の課題は国産材需要の安定的成長にある。需要量・価格の乱高下は、安定的な素材生産、森林整備の仕事に集中的に取組めず、周辺の経済状況に振り回されて頭を抱えることとなる。これを防ぐには、川中工場の活性化、成長がポイントである。そこで、私なりの方策アイデアを述べたい。

「1つ目」、合板工場です。合板工場は、フル稼働にならず減産傾向です。これには、主製品である構造用合板が、新設住宅着工戸数の伸び悩みで、需要が伸びないのが最大の要因です。まずは、構造用合板で国産材比率80%を100%にすることです。そのためには、3×6合板以外の7尺、8尺、9尺、10尺、4×8の特注合板用の米マツを国産材に切り替えることです。このためには、歩留りを考えて、山元の素材業者に安定的に特注丸太を発注することが一番です(カラマツだけではなく、アカマツ、スギも...)。

「2つ目」、複合床板基材です。節無し、死節があると床板基材に向かないことから、

東北の合板工場も北海道からトドマツ丸太を内航船で運び利用しています。複合床板基材の国産材利用率は50%位なので、まだまだ、可能性はあります。ホームセンター向け(購入者が一枚一枚見てキレイな合板を選ぶために)にスギの元玉を別価格で買っていた事例もあり、節の出ないスギ元玉・2番玉集荷で対応する。強度が必要なら、単板をプレスして圧縮単板を作る方法も...。

「3つ目」、国産材比率10%程度の型枠合板である。大手ゼネコンが地球温暖化対策に取組む中、材工込みで型枠大工組合へ発注する方式を改め、ゼネコン自ら国産材型枠合板支給負担方式に切り替えて、南洋材からの転換を図る(合板工場からの働きかけではないかも...?)。

「4つ目」、LVL工場(合板工場併設JAS認定取得工場)である。住宅用の「梁桁」の自給率が10%程度の中、LVLの「梁桁」の強度を担保して供給する。平面同方向接着なので長さが自由選択できるメリットがあるが、設計段階での取組みが必要。曲げ強度の高い材料が必要なら、カラマツ、アカマツ利用も検討する。新用途としては、LVLでなく、LVB(ラミネーテッドベニアボード)としての利用がある。建築現場の仮囲い等の現場に応じて、長さ

の異なる大型ボードとしての利用が期待される。

「5つ目」、集成材工場である。集成材の管柱用はWW(ホワイットウッド)ではなく、スギでも何ら問題はない。自給率を高めるには、WWの単価もあるが、安定的に供給できるかにある。そのためには、備蓄在庫を工場と問屋とプレカット工場で協調して在庫することが「鍵」である。問題は、RW(レッドウッド)代替の梁桁である。自給率10%程度である。管柱に比べて、曲げ強度が求められていることから、スギ、カラマツ、アカマツのハイブリッド開発が第一歩であるが、一番の望みはMSR材(機械等級区分製材)区分したスギラミナ供給体制である。これには、別会社の集成材ラミナ工場から調達することと、強度の高いスギの丸太段階での区分ができることが必要である。立木の場合、材齢、形状等のデータ調査は、高強度ラミナ比率を上げるためには必要である。

「6つ目」は、製材工場である。大規模な製材工場は、作る製品が固まっており、その製品に合わせて工場設備も高速化している。樹種、長級、径級の本当に必要な丸太については、単価を少し高く設定し、不足しないことが必要。何でもOKーは、他の工場が引き受けない樹種のみが集まる可能性がある。とにかく、安定的発注が大切。世の中に合わせた、主製品、副製品の

木取りも必要。

中小規模の製材工場は、なんと言っても地場需要は一定量の確保である。大手住宅メーカーに比べて、地方の工務店の外材依存度は高い。今だに米ツガ柱や米マツの梁にこだわっているところが多い。ここを商工会とかでも付き合があるなら変更を働きかける必要がある。また、見積り量が大きい場合は、地域の他の製材所と共同受注することが大事である。ライバルでもあるが、仲間でもある関係が必要である。

そして、製品販売の輸送コストの削減が必要である。経費を抑えるには、「単独配車で少量を運ぶ」のではなく、木材関係以外(物流)も含めた帰り荷や共同出荷を工夫する必要がある。原木市場から丸太購入製品市場で、全て販売の時代は終わりに近づいている。仕入れ先、販売先も複数として、常に情報交換が必要である。間柱、小角類、垂木等は、これからも必要である。加えて、良材挽きであれば、広く木工業、木箱折箱業、家具業等、2次加工業との関係も再構築が必要である。制度改正が必要だが、東日本にヒノキはほとんど無く、スギ赤身土台の復活は、必須かなあ。

ちよつと製材工場は視点を変えたが、川中の工場が活性化しないと、川上は大変である。一方的な意見となったが「なるほど...。」と感じた人は、是非!動いてほしいと思う昨今である。

令和7年8月分の販売実績

樹 種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	9,338	77.7	82.9	14,941	75.9	141.4	24,279	76.5	111.2
カラマツ	5,671	85.1	115.2	210	63.1	147.5	5,881	84.0	116.1
アカマツ	2,226	81.7	87.3	78	*	*	2,304	84.5	90.4
その他	7	*	*	107	77.2	44.6	114	82.6	47.7
合 計	17,242	80.5	92.0	15,337	76.0	140.1	32,579	78.3	109.7

樹 種	燃 料 用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	5,005	140.0	149.3
カラマツ	4,334	94.4	97.0
アカマツ	843	165.8	156.6
その他	575	126.2	119.5
合 計	10,757	117.8	121.7

樹 種	今 年 度 累 計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃 料 用 (t)
ス ギ	58,213	79,531	137,745	15,296
カラマツ	33,458	1,058	34,516	19,896
アカマツ	12,207	135	12,342	3,648
その他	30	931	961	3,438
合 計	103,908	81,656	185,564	42,278
目標達成率(%)	41.6	44.1	42.7	35.2
計 画 量	250,000	185,000	435,000	120,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和7年9月の需給動向】

- 集成材、製材工場の原木不足状況は続く。虫害を注意しながらも、スギ4m材の引き合いは強い。
- 合板工場は特に、お盆休みの影響もあり、納入制限が強まる傾向。工場の原木在庫も増え、制限が続く。
- アカマツは青変菌による影響を受けやすい時期ではあるが、一部の合板工場で引き合い強まる。

耳からウロコ

記憶がよみがえった「新木橋の時代」

―何故、木橋を取り上げ、本になったか？―

今年度の春、土木学会で話をする機会があった。この中で、久しぶりに記憶がよみがえった「新木橋の時代」の本の話をした。そこで、何と出席研究者から、その本の取りまとめを教授と一緒にやりましたと発言があった。「えっ、確か木橋の研究者が見つからず、唯一だった人は秋田大学鉱山学部だったはずですが」と言うと、「まさに鉱山学部にいたんです」という人だった。

この本は、整備課長をした大槻幸一郎氏が巻頭言を書いているが、元々林産課の調査事業だった。偶然にも、大槻氏も秋田の高校の先輩で、全て秋田つながりである。

何故、この調査事業を始めたか？実は、建築基準法改正による木材利用促進策で、都道府県庁から必要とする事例を希望収集した。その中に、建物でない木橋利用の希望があった。とある大温泉地の街中の鉄橋が、熱と温泉成分ですぐに使えなくなり、短期間に改修が必要だと。このエリアだけは、鉄橋でなく、木橋にしたいとのことだった。後に、木曾檜で造りかえた錦帯橋のような伝統的木橋ではないので、「新木橋」という言葉にした。その時の教授の深く知っていた事柄では、カナダとかは、普通の国

道に木橋を架けて、定期的に部材を交換して長期間使用しているという。そういうえば、ニュージランドもそうだったなあ。これなら、高速道路や一桁国道にもと思った。同じ時に、魚市場の荷上場・卸売市場の建物も、S造では海水と潮風ですぐだめになるので、建築基準法を改正して、木造にして欲しいとの要望もあった。そうだよ。この頃、海岸線にある町に転勤したら、車はすぐ錆びるから中古になると安くなるので、新車を買うかと先輩からアドバイスを受けたことも思い出される。結局、特定の地域では、鉄が向かないということである。ここは、木造の利点が確実で、ダントツの優位性があるのである。

今、木造化が急ピッチで進んでいる畜舎も、鉄では、糞尿のアンモニア等の影響もあり、耐用年数が短く、設備投資としては不利なのである。

このように、記憶のよみがえった40年近く前の調査事業だが、全く「新木橋の時代」は訪れていない。非住宅の高層ビル木造化や土木工事の木材利用は、様々なマニュアルも整備され進んできたが、木橋は…である。

要望のあった温泉地は、今も巨大温泉街である。ニーズは変わらないかな！高速道路にも可能性は今もあると思う。だから、産学官で、本にまでした夢を叶えてほしいです。まずは、国土交通省土木研究所と仲良化かな？